



西原村 総合防災 マップ

命を **守** るために
知 っておきたい
大 切 なこと。

水と緑とひかりの村

西原村防災マップ (Web版)

右の二次元コードよりご覧いただけます。



総合防災マップの使い方

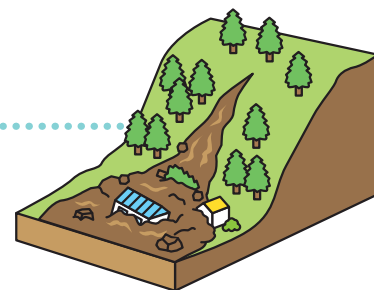


はじめに

総合防災マップとは、洪水・津波・土砂災害などの自然災害の被害履歴に基づき、想定される災害リスクをわかりやすく表現した地図です。総合防災マップを活用し平時より防災意識を養うことが必要です。

ステップ1 地域の危険な区域を確認しましょう

各種防災マップから、お住まいの地域ごとにどのような危険性があるか確認しましょう。大雨・台風時にはどの河川の氾濫により浸水するか、地震時には土砂崩れの影響を受けるおそれがあるかなどの確認が必要です。

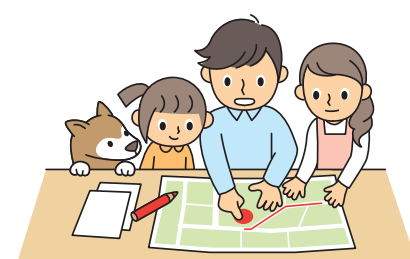


ステップ2 避難経路や避難方法の確認をしましょう

災害発生に備え、避難経路や避難方法を予め確認しておくのがよいでしょう。災害の状況やあなたの置かれた状況によって、命を守るための避難行動（避難タイミングと避難先）は異なります。大雨・台風、地震等の災害ごとに命を守るための避難行動を確認しましょう。

また、実際に避難経路を歩いて、いざというときにスムーズに避難できるようにしましょう。

MAP1～MAP8の地図の縮尺は1万分の1です。距離を図る場合は地図上の1cmは実際の距離の100mに相当します。



ステップ3 命を守るために日頃からの備えを確認しましょう

災害時には様々な情報が発信されます。いざというときにすぐ行動できるよう、掲載している情報や、マイ・タイムラインを活用し、日頃から備えておきましょう。



索引

マイ・タイムラインの作成	P1
防災対策&チェック	P2
非常時持ち出し品の準備&チェック	P3
地震	P4・5
風水害・台風	P6・7
洪水・土砂	P8
防災情報	P9
避難について	P10
避難施設一覧	P11

洪水浸水想定区域・土砂災害情報説明	P12
西原村全体図	P13
MAP1	P14・15
MAP2	P16・17
MAP3	P18・19
MAP4	P20・21
MAP5	P22・23
MAP6	P24・25
MAP7	P26・27
MAP8	P28・29

発行:西原村 製作・著作:株式会社ゼンリン熊本営業所 作成:令和6年2月

「この地図は、西原村長の承認を得て、同西原村発行の1/2,500基本図を使用し、調整したものである。(承認番号)西企発第2568号」
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R5JHs 167-089号」「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R5JHs 168-039号」

無断で複写・転載することはご遠慮ください。著作権者に無断で本誌の全部、または一部を複製及び転載することは、著作権法により禁止されています。

マイ・タイムラインの作成



マイ・タイムライン(風水害編)とは、台風の接近などによって洪水が起こりそうなときに、自分たちで自分や家族がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものです。

台風を想定したタイムラインでは、**台風が直撃する3日前、2日前、1日前、半日前、氾濫5時間前、氾濫3時間前**など各時間にどのような行動をとるか整理するのがよいでしょう。



1 ハザードマップで、浸水深・避難所・避難情報を確認する

洪水が起こった時に自宅や周辺が浸水するかの確認し、避難場所を決定し、避難場所へどのような経路で避難するかを確認します。避難指示や土砂災害警戒情報など、どのような情報が出たら避難を開始するかの確認します。

2 洪水発生までにとるべき基本的な行動を考える

今後の台風情報を調べ始める、川の水位を調べ始める、住んでいるところと上流の雨量を調べ始める、非常持ち出しバッグをチェックする、避難しやすい服装に着替える、安全なところへ移動を始める、などの基本的な行動とその順番を考えます。

3 家庭の状況をチェックする

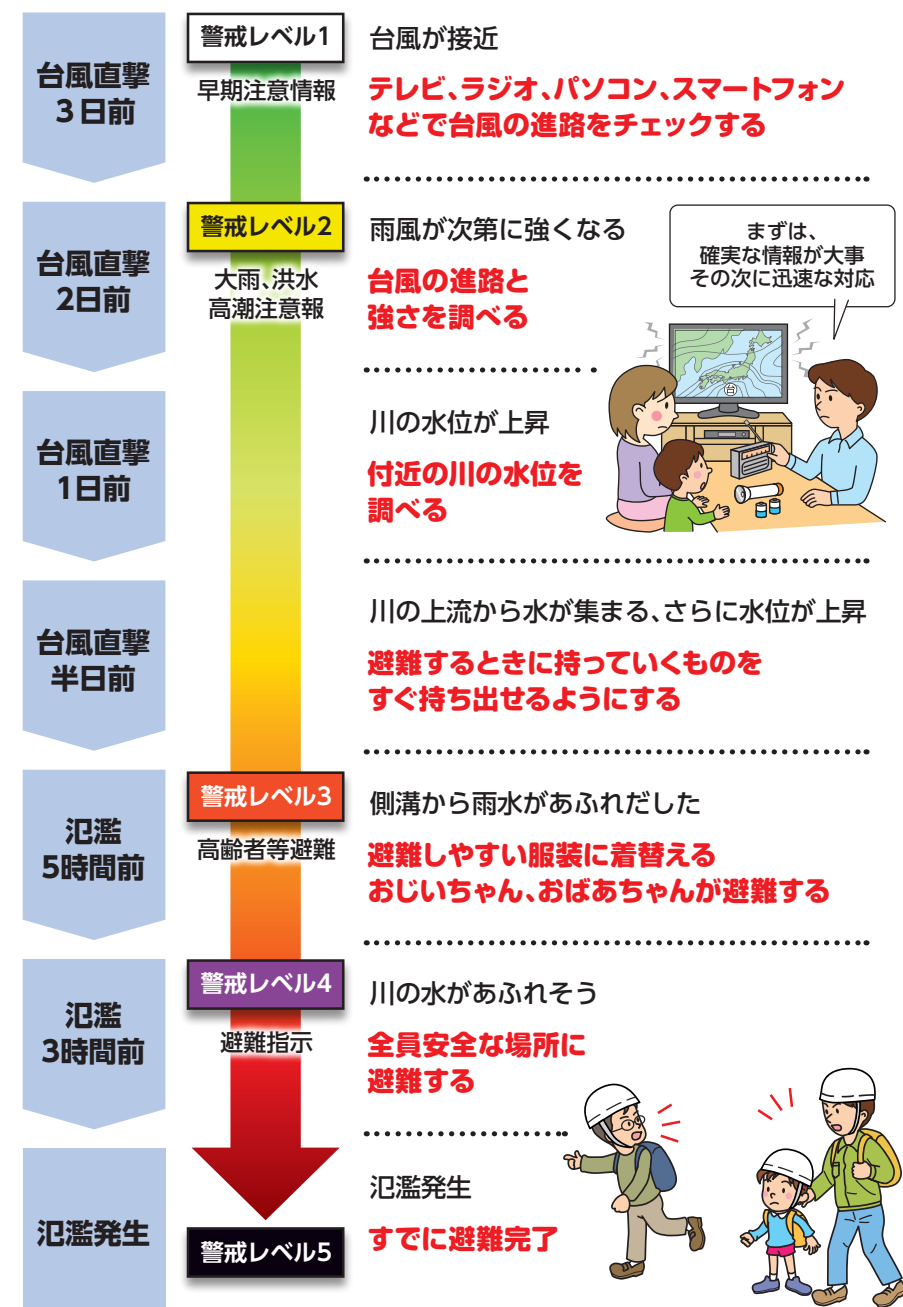
車を持っている、祖父母と同居している、ペットを飼っている、家族に持病がある、親戚など避難を受け入れてくれる場所があるなど、避難行動に向けた留意点を確認して、自分たちに必要な行動を考えます。

4 行動を時間ごとに整理する

基本的な行動と、家庭の状況チェックを行い、基本的な行動や、それ以外の自分たちに必要な行動が分かったら、それを、時間ごとに並べます。

マイ・タイムライン

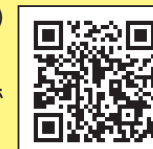
指定避難所: 〇〇〇〇学校 住んでいる場所の浸水深(m): 〇〇m



※上記はマイ・タイムライン作成の一例です。

国土交通省のサイト「Webでマイ・タイムライン」 熊本県のサイト「くまもとマイタイムライン」

(<https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/mytimeline/>)
からも、手軽にタイムラインを作成することができます。
右の二次元コードから、国土交通省のサイト「Webでマイ・タイムライン」を閲覧できます。



(<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/>)
からも、手軽にタイムラインを作成することができます。
右の二次元コードから、熊本県のサイト「くまもとマイタイムライン」を閲覧できます。



防災対策 & チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。



家の中の安全対策

☐ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

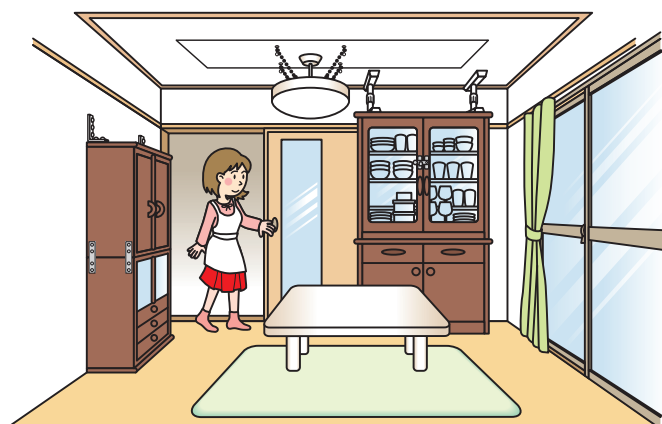
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

☐ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

☐ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



☐ 寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない

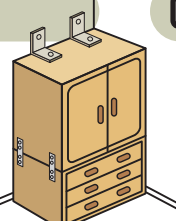
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

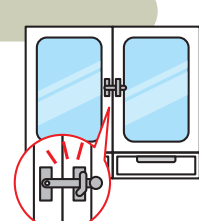
☐ タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



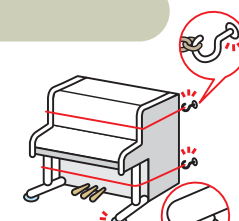
☐ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



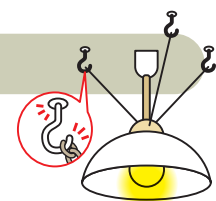
☐ ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



☐ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



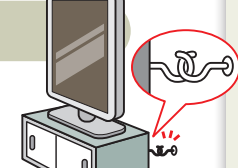
☐ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



☐ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



家の周囲の安全対策

☐ 屋根

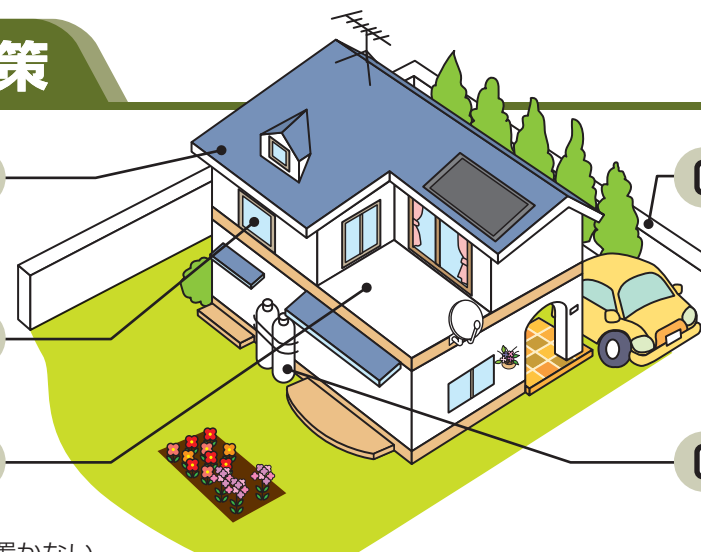
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

☐ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

☐ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



☐ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

☐ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときにすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

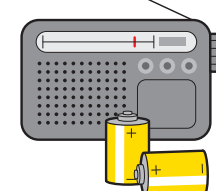
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。



非常時持ち出し品(例)

● 携帯ラジオ

- ☐ ラジオ
- ☐ 電池 (多めに用意)



● 救急医療品

- ☐ 常備薬
- ☐ 傷薬
- ☐ 風邪薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 絆創膏
- ☐ 包帯
- ☐ 胃腸薬
- ☐ マスク
- ☐ お薬手帳



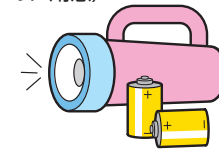
● 貴重品

- ☐ 現金
- ☐ 印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ 預金通帳
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書
- ☐ マイナンバーカード



● 懐中電灯

- ☐ 懐中電灯 (できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池 (多めに用意)



● 非常用食品等

- ☐ 非常用食品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 水筒
- ☐ 缶詰
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ

火を通さないで食べられるもの、食器など



● その他

- ☐ 衣類 (下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ 離乳食
- ☐ タオル
- ☐ 粉ミルク
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 雨具
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ ラップフィルム (止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 眼鏡、コンタクト保存液
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ 防災マップ (本書)



非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

● 飲料水

- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター (1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど



● 非常用食品

- ☐ お米 (缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ (菓子類など)



● 燃料

- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料



● その他

- ☐ 生活用水 (風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具 (なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など



非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに非常用食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限が過ぎたものから順に入れ替えておきましょう。



避難生活が長引くときに便利なもの

- ☐ 携帯トイレ
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ 裁縫セット
- ☐ ガムテープ
- ☐ 地図
- ☐ さらし
- ☐ 筆記用具 (マジックなど)
- ☐ スコップなど



熊本地震で役に立ったもの

- ポリタンク
- ホイッスル
- 予備の眼鏡・補聴器
- ブルーシート
- 新聞紙
- 補助用具として
- ロープ
- スコップ
- のこぎり
- バールやハンマー
- 車のジャッキなど

地震

屋内 にいた場合

- ### 家の中
- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
 - 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
 - 高齢者等の避難行動要支援者の安全を確保する。
 - 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

- ### 集合住宅
- ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

- ### デパート・スーパー
- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

- ### 劇場・ホール
- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
 - あわてずに冷静な行動をとる。



屋外 にいた場合

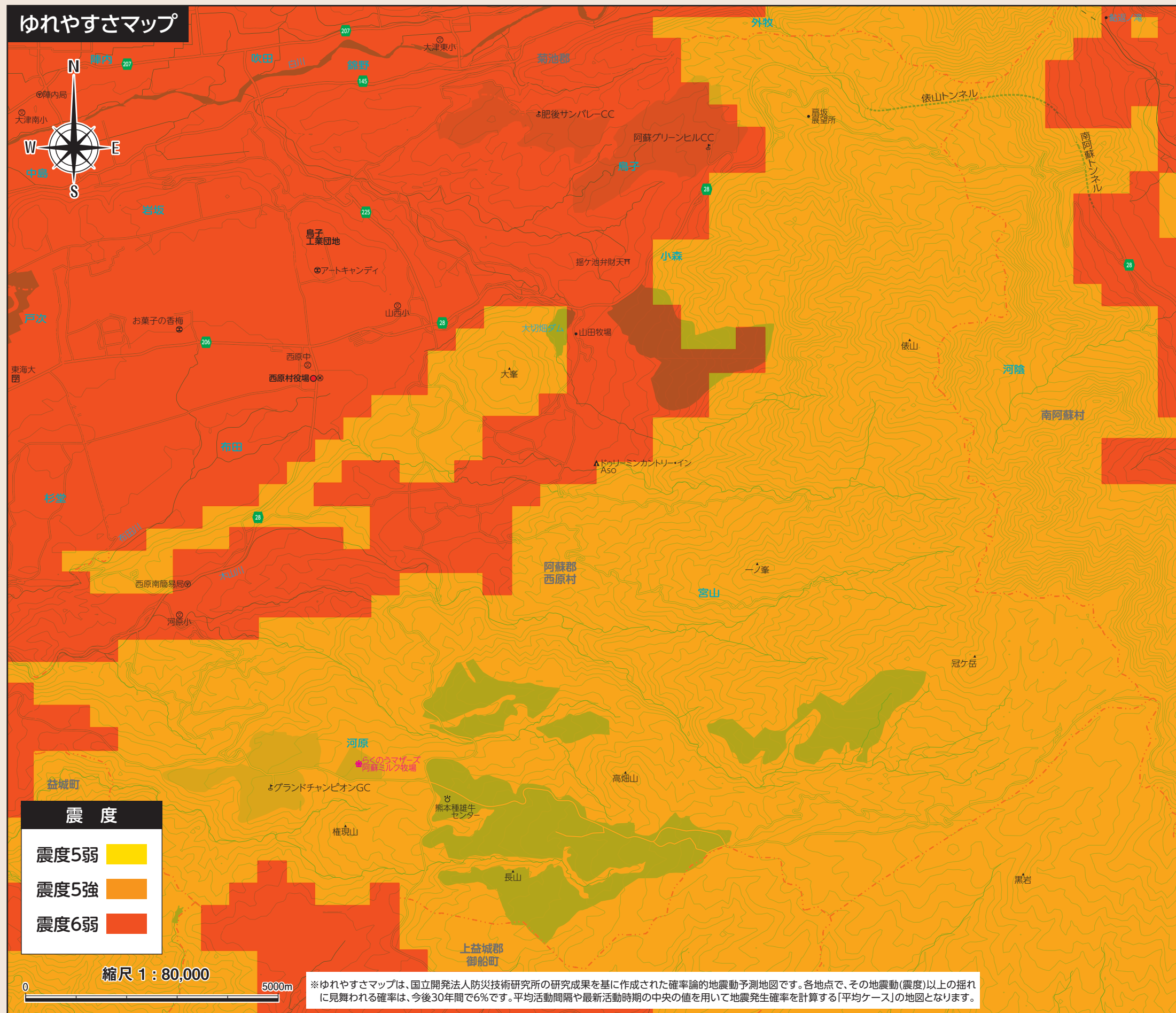
- ### 路上
- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
 - 近くに空き地などがいないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
 - ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
 - 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

- ### 車を運転中
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
 - 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
 - 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

- ### 海岸付近
- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



- ### 電車などの車内
- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
 - 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
 - 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保…手近な座布団などで頭を保護
- すばやく火の確認…ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認…火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認…倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく…家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- | | |
|------------|--|
| 隣近所に声をかけよう | <ul style="list-style-type: none"> ●避難行動要支援者の安全確保…隣近所で助け合う ●行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか |
| 出火防止 初期消火 | <ul style="list-style-type: none"> ●初期消火…消火器を使う、バケツリレー、風呂の水はため置きをしておく ●漏電・ガス漏れに注意 ●電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意 |



ラジオなどで正しい情報を得る

- 救出・救護を
- 村や防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう
- 3日間の飲料水と非常用食品の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 助け合いの心が大切
- 無理はやめよう
- 壊れた家に入らない

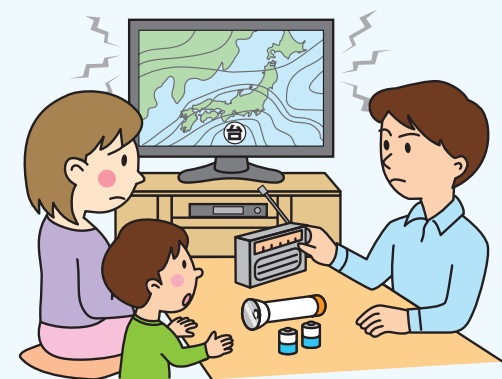


風水害・台風



大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。



まずは、確実な情報が大事。
その次に迅速な対応

大雨 注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生する
おそれがあると予想したときに発表

大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれ
があると予想したときに発表
特に警戒すべき事項を表題に明示して「大雨警報(土砂災害)」、
「大雨警報(浸水害)」又は「大雨警報(土砂災害、浸水害)」のように発表

土砂災害 警戒情報

降り続く大雨のため、土砂災害警戒区域等で命に危険が及ぶ土砂災害が
いつ発生してもおかしくない非常に危険な状況であると予想したときに発表
危険な場所から全員避難!!

大雨特別 警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表
特に警戒すべき事項を表題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、
「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表
雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続

■記録的短時間大雨情報とは…数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の気象台が発表します。
熊本県区域の発表基準は、1時間雨量110mmとなっています。

雨の強さと 降り方

時間雨量 (mm)	10 以上～20 未満	20 以上～30 未満	30 以上～50 未満	50 以上～80 未満	80 以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受ける イメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返し たように降る。	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫 感がある。恐怖を感じる。

風の強さと 吹き方

平均風速 (m/秒)	10 以上～15 未満	15 以上～20 未満	20 以上～25 未満	25 以上～30 未満	30 以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人 も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていなくて立っていられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。

台風の 大きさと 強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上～800km 未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがあ
りますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに
気象情報には、
注意して
おきましょう!



特別警報

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが
著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

●気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

※過去の災害事例に照らして、指数(土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数)、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などに関する客観的な指標を設け、これらの実況および予想に
基づいて気象庁が発表を判断します。

●地震(地震動)・火山・津波に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上又は長周期地震動階級4の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上又は長周期地震動階級4)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

※これらの特別警報は、名称に「特別警報」は用いず、従来どおりの名称で発表します。

※地震動特別警報の基準における長周期地震動階級とは、気象庁長周期地震動階級表(令和2年気象庁告示第6号)で定めるものをいう。

特別警報が発表されたら

- ❗尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ❗重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ❗ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

顕著な大雨に関する気象情報

●線状降水帯の発表基準

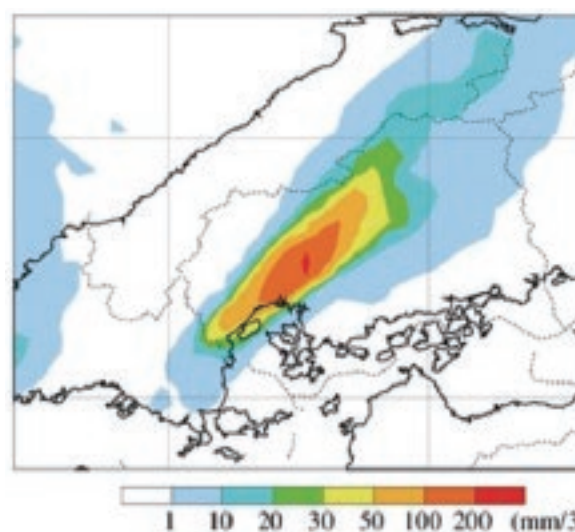
「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予
想された場合に、半日程度前から、気象情報において、「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけます。

線状降水帯 とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を
通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう
雨域を線状降水帯といいます。

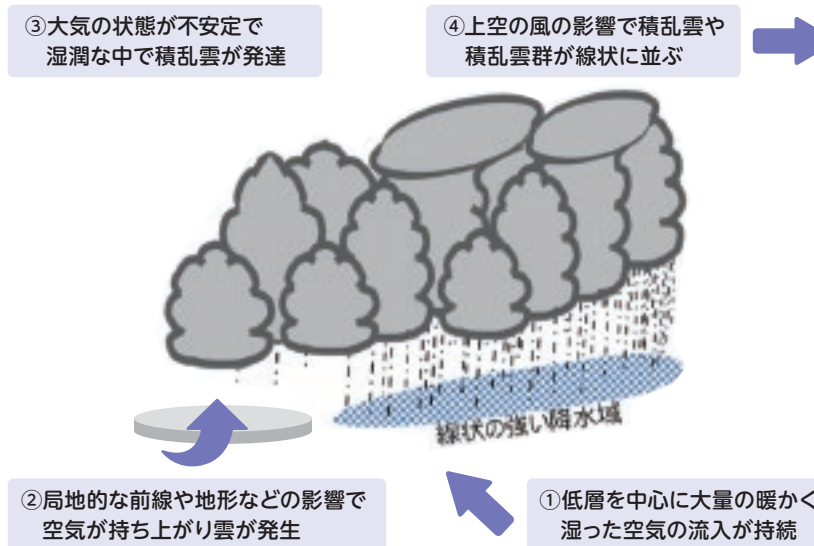
毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。

線状降水帯の例(平成26年8月の広島県の大雨)



気象庁の解析雨量から作成した、平成26年8月20日4時の前3時間積算降水量の分布

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



洪水・土砂

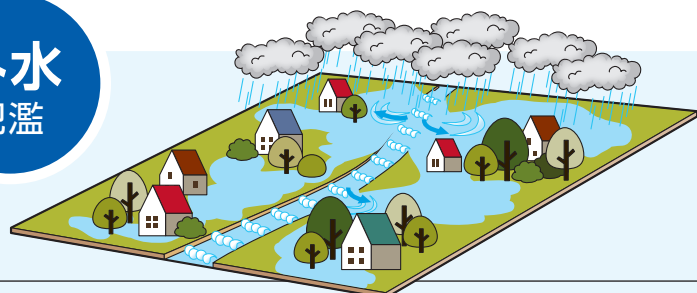
大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。
事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。



川の氾濫

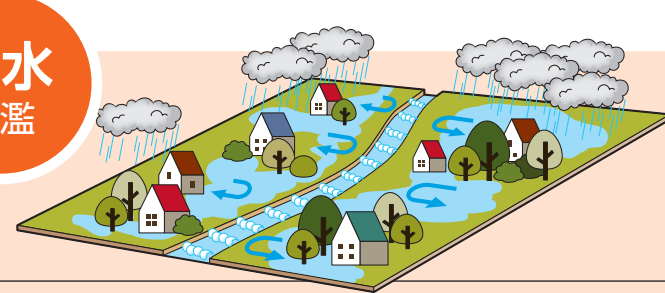
雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「**外水氾濫**」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「**内水氾濫**」の2タイプがあります。

外水氾濫



大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

内水氾濫



その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

土砂災害

※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに熊本県と熊本地方気象台が共同で発表しています。
土砂災害の危険がある地域にお住まいの方は、特に早めの避難が重要ですので、土砂災害警戒情報を避難の参考にしてください。
土砂災害警戒情報が発表されていなくても、下の図のような土砂災害の前兆に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難し、西原村役場までご連絡ください。



がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。
がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。
その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20〜40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。
また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



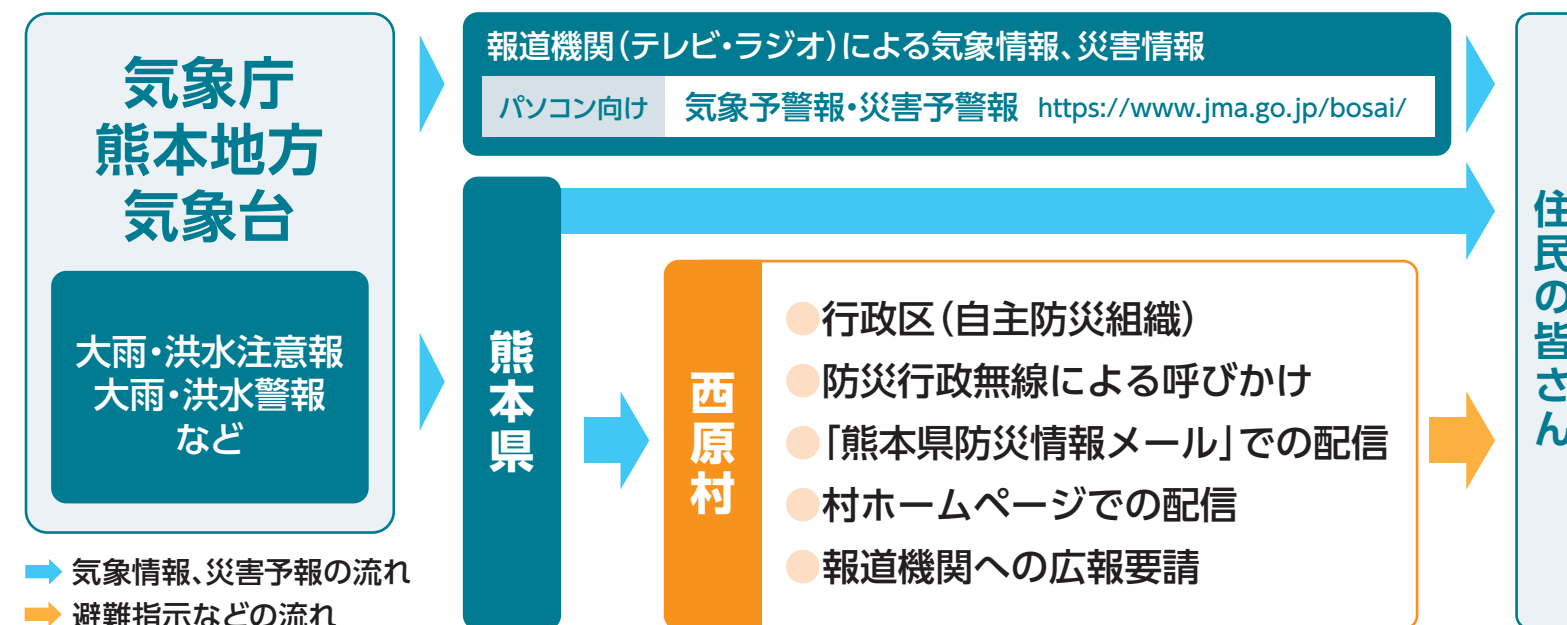
防災情報

村では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、警戒レベル3から警戒レベル5を発令し、皆さんに避難を促します。
避難指示などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。



気象情報・防災情報などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、村からの情報に注意してください。



警戒レベルと避難のタイミング

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報	防災気象情報(警戒レベル相当)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1 (市町村発令)	大雨特別警報 はんらん 氾濫発生情報 (暴風特別警報)
〜警戒レベル4までに必ず避難!〜				
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示 (市町村発令)	土砂災害警戒情報 はんらん 氾濫危険情報 高潮警報・特別警報
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2 ●避難に時間のかかる要配慮者(高齢者・障がい者・乳幼児等)とその支援者は避難 ●高齢者等以外の人も危険を感じたら自主的に避難	高齢者等避難 (市町村発令)	大雨警報・洪水警報 はんらん 氾濫警戒情報 高潮注意報(警報の可能性) 暴風警報※2
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報 (気象台発表)	はんらん 氾濫注意情報 (強風注意報)
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性) (気象台発表)	

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである

避難について

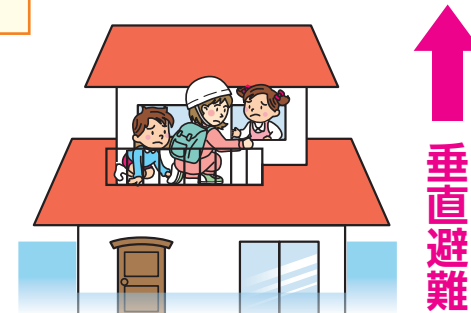


避難は自ら判断を

●命を守る行動とは

危険な状況の中での避難はできるだけ避け、安全確保を第一に考えて下さい。
危険が切迫している場合は、指定された避難所への移動となる「**水平避難**」
だけでなく、命を守る行動として「**垂直避難**」が必要な場合もあります。

- 例
- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい
 - 流れがあり、ひざ上まで浸水している(50センチ以上)
 - 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
 - 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落の恐れがある



上記の場合、屋外への移動は危険です。

浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上(土砂災害の場合は斜面と反対側の部屋)へ緊急的に一時避難(垂直避難)し、救助を待つことも検討してください。

避難時の注意

●情報の確認

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の気象情報や避難指示等に関する情報を入手しましょう。



●隣近所への呼びかけ

お年寄りや子供、病気の人は早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病気の人のための避難に協力しましょう。情報伝達や避難場所をとりまとめておくとう便利です。



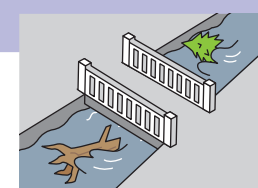
●車での避難は危険

自動車が水に浸かると動かなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして大変危険です。自動車での避難は特別の場合を除きやめましょう。



●橋や川の近くは危険

川が増水している場合には、川の流が速く、橋が壊れたり流されたりして非常に危険ですので、近寄らないようにしましょう。



●防災責任者の指示に従う

避難のときは警察・消防・地元の防災責任者などの指示に従って行動しましょう。
独断での行動は大変危険です。



●動きやすい服装、集団での避難

避難するときは、動きやすい格好で、二人以上での行動を心がけましょう。



●避難時の歩き方

避難中はできるだけ浸水していない場所を歩きましょう。浸水している場合には下水道のマンホールや側溝等への転落のおそれがあり危険ですので注意しましょう。



避難施設一覧

指定避難所

「災害の危険に伴い避難をしてきた被災者等が一定期間滞在するための施設です。」



指定避難所兼指定緊急避難場所



指定避難所

指定緊急避難場所

「災害の危険から命を守るために緊急的に避難をする場所です。」



福祉避難所



公民館

指定避難所・指定緊急避難場所・福祉避難所・公民館一覧

指定避難所兼指定緊急避難場所

名称	住所	地図座標	備考
構造改善センター	小森3204-1	3-D-3	

指定避難所

名称	住所	地図座標	備考
西原村総合体育館	小森3161	3-D-3	
河原小学校	河原976	5-B-2	小学校
山西小学校	小森2754-1	3-E-2	小学校
西原中学校	小森3251	3-D-3	中学校

福祉避難所

名称	住所	地図座標	備考
社会福祉法人成仁会 特別養護老人ホーム みどりの館	布田897-1	3-B-4	特別養護老人ホーム

公 民 館

地区名	住所	地区名	住所
古閑公民館	鳥子1338-1	多々良公民館	宮山175-5
葛目公民館	鳥子2280-3	日向公民館	宮山57-3
上鳥子公民館	鳥子2673	布田公民館	布田1722-1
馬場公民館	鳥子974-3	高遊コミュニティーセンター	布田986-5
小園公民館	鳥子185	西原台公民館	小森3618-2
袴野公民館	小森1595	士林公民館	河原1069-1地先
桑鶴公民館	小森2145-22	秋田公民館	河原1098-6
大切畑公民館	小森1994	門出田中公民館	河原754-1
風当公民館	小森1252-2	第2河原団地集会所	河原551-1
畑公民館	小森1098-5	星田公民館	河原706-2
名ヶ迫公民館	小森795-1	下古閑公民館	河原2985-2
万徳公民館	鳥子659-4	医王寺公民館	河原3171
下小森公民館	小森503-1	滝公民館	河原2325-3
新所公民館	小森3016-2	小野公民館	河原3654-1
緑ヶ丘公民館	小森3491-12	瓜生迫公民館	河原1381-2
山西団地集会所	鳥子659-1	猿俣公民館	河原3785
出の口公民館	宮山1857-1	灰床公民館	河原4115
宮山公民館	宮山558	小森団地集会所	小森3157-1

洪水浸水想定区域とは 土砂災害情報とは

洪水浸水想定区域とは

「計画規模」と「想定最大規模」の降雨について

洪水を引き起こす雨量については、「計画規模」の降雨と「想定最大規模」の降雨の2種類があります。
計画規模の降雨とは、100～200年に1度程度の割合で発生する降雨量を想定したもので、河川整備など洪水防御に関する計画の基本となる降雨です。一方で、想定最大規模の降雨とは、想定し得る最大規模の降雨のことで、1000年に1度程度の割合で発生する降雨量を想定しています。
この想定に基づき示したものが洪水浸水想定区域です。

熊本県管理河川の水位周知区間の浸水想定区域について

この洪水浸水想定区域図は、白川水系河川(白川)の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
この洪水浸水想定区域図は、指定時点の白川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により白川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域図に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

作成主体:熊本県土木部河川課 指定年月日:2019年3月29日

熊本県管理河川の水位周知区間以外の浸水想定区域について

対象河川:緑川水系河川(木山川、金山川、布田川、滝川)、白川水系河川(鳥子川)
この洪水浸水想定区域図は、対象河川の法河川区間(水防法に基づく洪水予報区間及び水位周知区間外)について、氾濫が推定される範囲、氾濫した場合に推定される水深を表示した図面です。
この洪水浸水想定区域図は、作成時点の地形地物の状況等を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により対象河川が氾濫した場合に推定される氾濫の状況をシミュレーションにより求めたものです。
なお、このシミュレーションの実施にあたっては、河川堤防の決壊による氾濫範囲の拡大、内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域図に表示されていない区域においても氾濫が発生する場合があります。

作成主体:熊本県 指定年月日:2022年3月29日

土砂災害情報とは

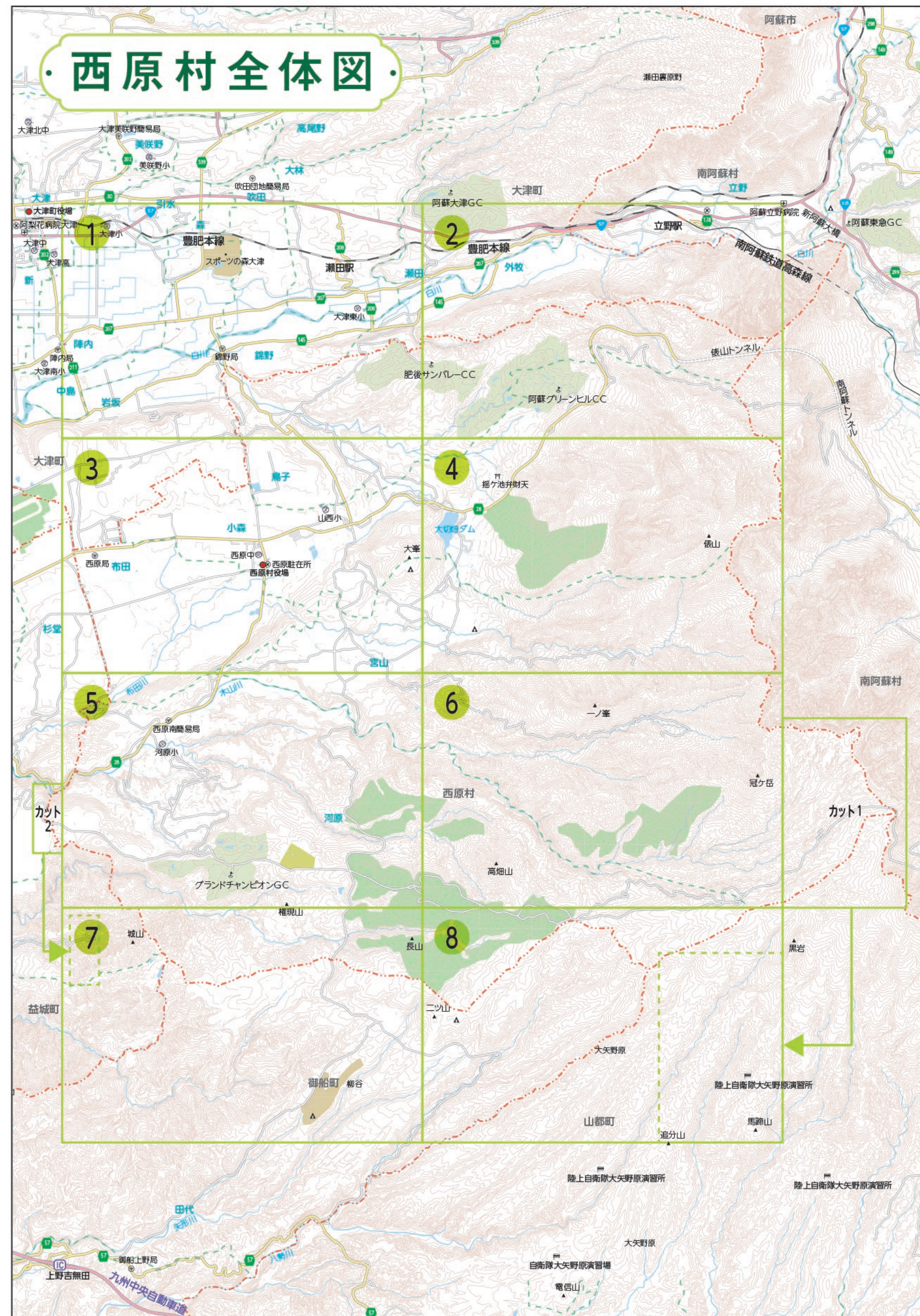
土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)とは

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われる区域です。

土砂災害警戒区域(通称イエローゾーン)とは

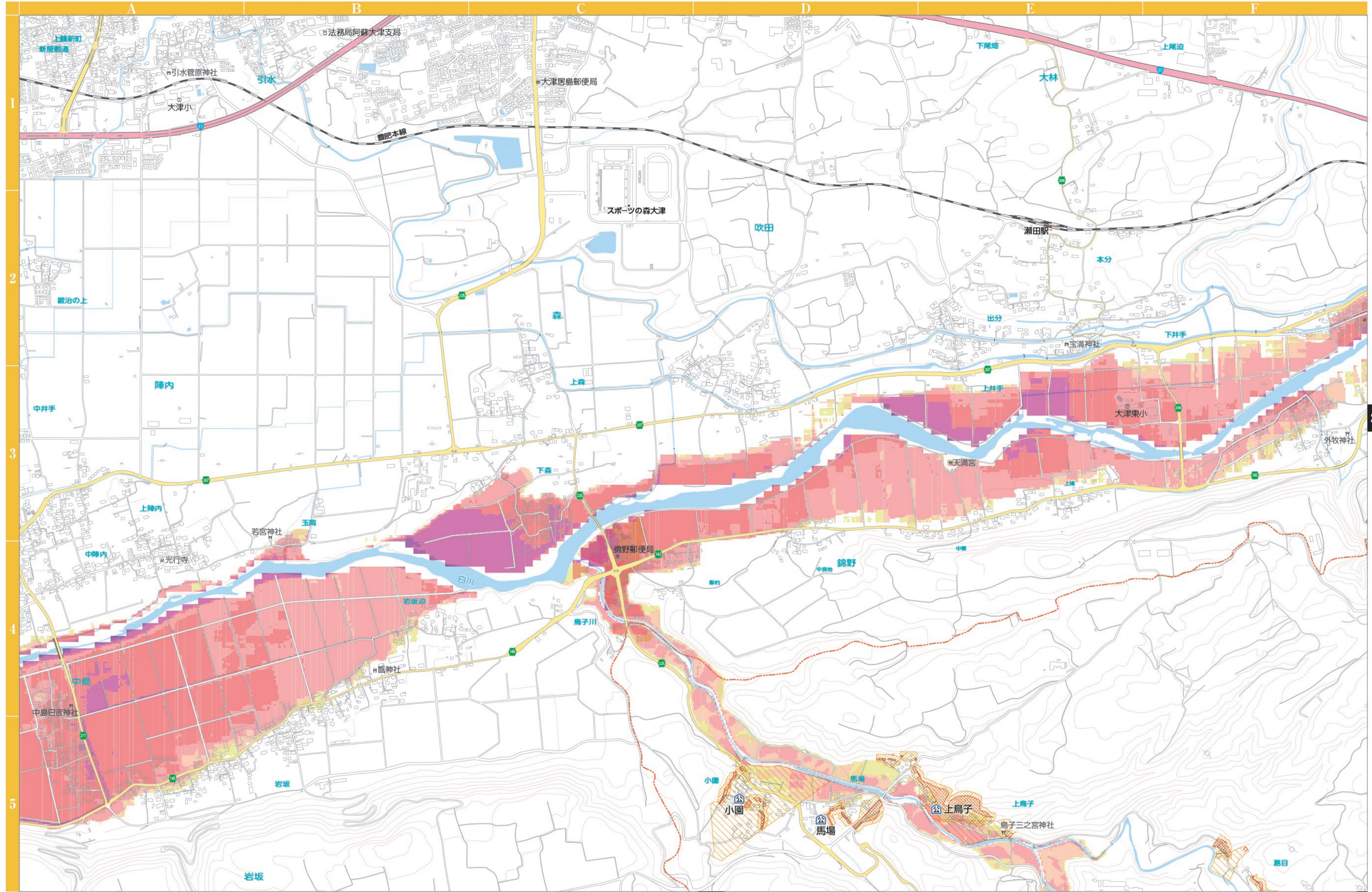
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われる区域です。

注意 土砂災害警戒区域や浸水想定区域に指定されていない区域であっても、災害が発生しないというものではありません。危険を感じたら速やかに安全な場所へ避難してください。また、作成に関しては、最新の注意を払っておりますが、縮尺の関係上、実際とは若干の誤差が生じている場合があります。詳細については、村、県の出先機関である阿蘇地域振興局、あるいは熊本県土木部砂防課、河川課にお問い合わせください。



凡例					

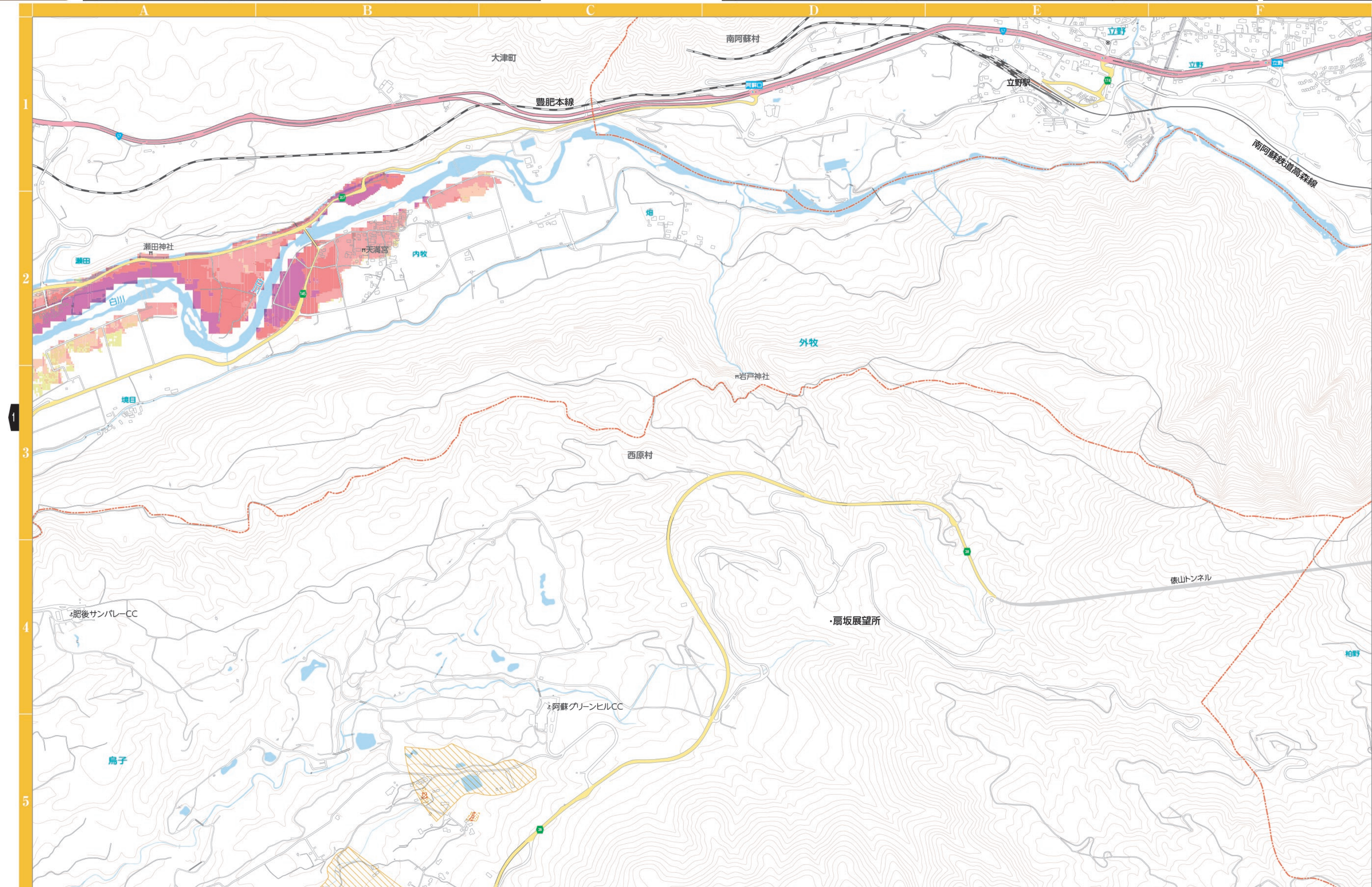
	0.3m未満の区域
	0.3m~0.5m未満の区域
	0.5m~1.0m未満の区域
	1.0m~3.0m未満の区域
	3.0m~5.0m未満の区域
	5.0m~10.0m未満の区域
	10.0m以上の区域



凡 例		指定避難所兼指定緊急避難場所		河川カメラ		役場		学校		国道
		指定避難所		水位計		警察署		神社		一般県道
		福祉避難所		冠水想定箇所		消防署		寺院		J R
		公民館		要配慮者利用施設		郵便局				私鉄

土 砂 災 害		特別警戒区域・土石流		特別警戒区域・土石流(指定予定)		急傾斜地(基礎調査予定)
		警戒区域・土石流		警戒区域・土石流(指定予定)		
		特別警戒区域・急傾斜地の崩壊		特別警戒区域・急傾斜地の崩壊(指定予定)		
		警戒区域・急傾斜地の崩壊		警戒区域・急傾斜地の崩壊(指定予定)		
		警戒区域・地すべり		警戒区域・地すべり(指定予定)		

浸 水 深 相 定 最 積 概 算		0.3m未満の区域
		0.3m~0.5m未満の区域
		0.5m~1.0m未満の区域
		1.0m~3.0m未満の区域
		3.0m~5.0m未満の区域
		5.0m~10.0m未満の区域
		10.0m以上の区域

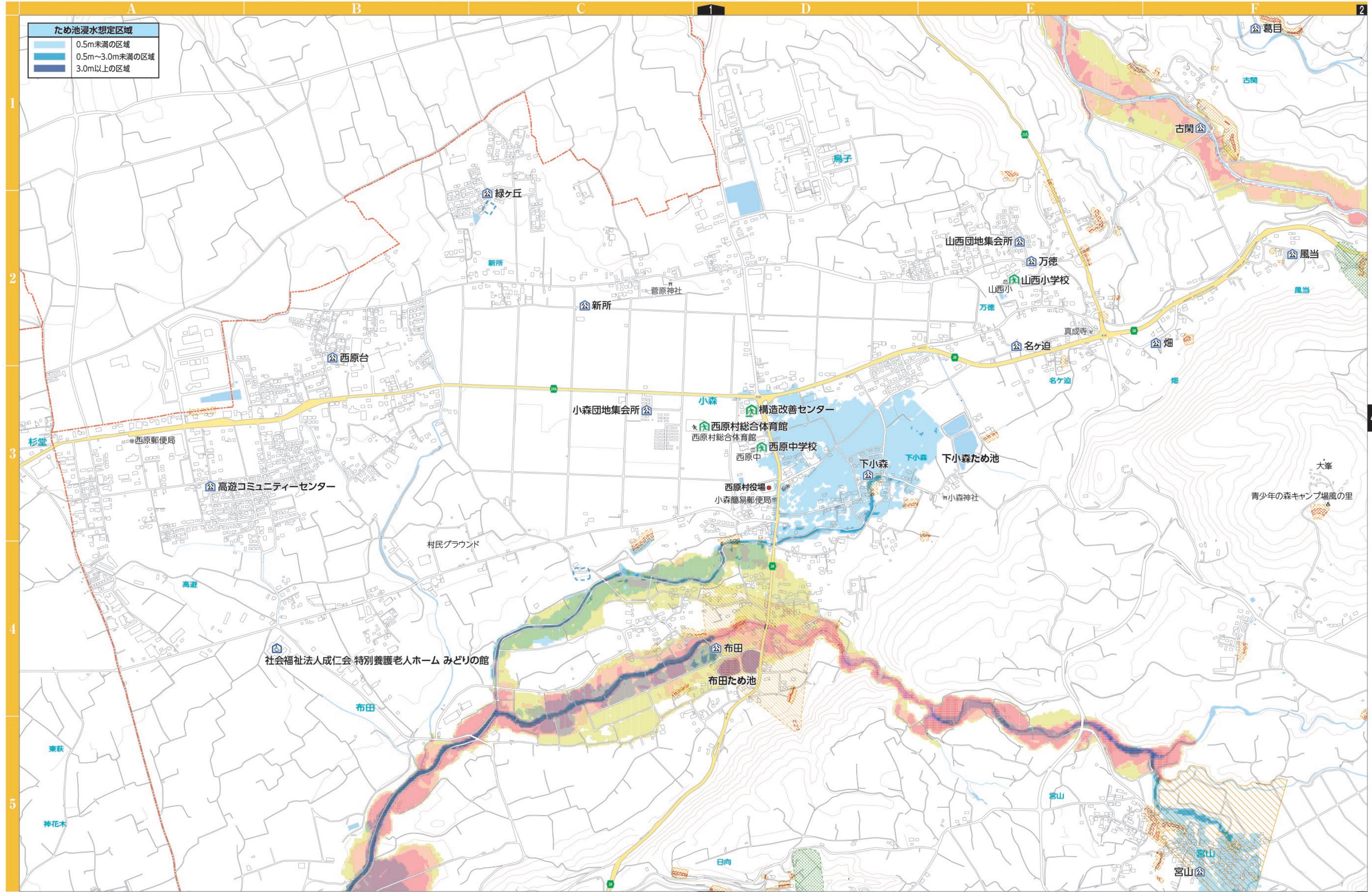


凡例					

	0.3m未満の区域
	0.3m～0.5m未満の区域
	0.5m～1.0m未満の区域
	1.0m～3.0m未満の区域
	3.0m～5.0m未満の区域
	5.0m～10.0m未満の区域
	10.0m以上の区域

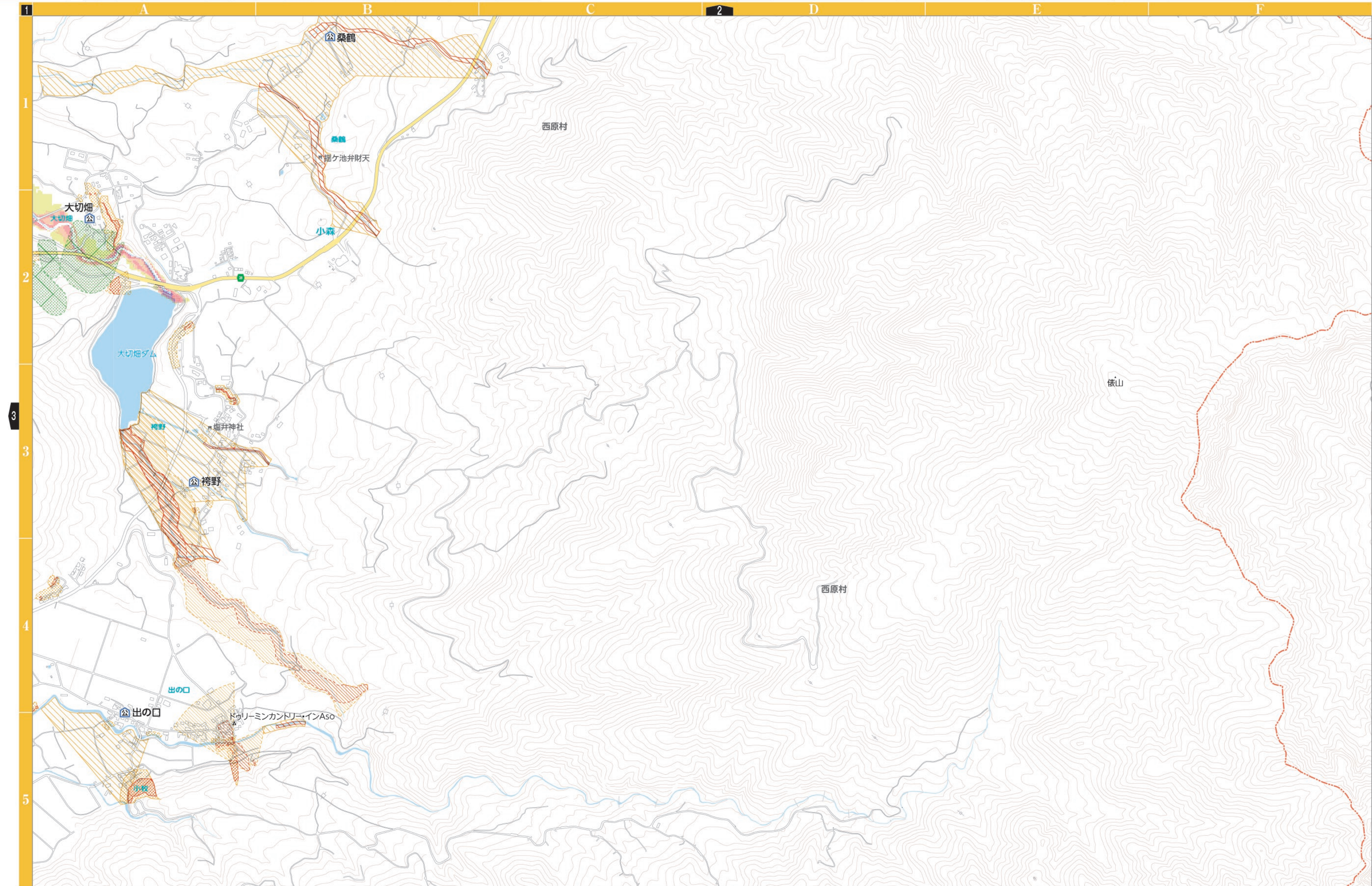
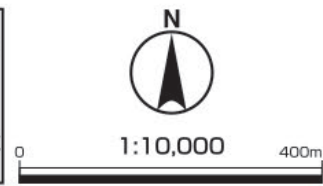


ため池浸水想定区域	
	0.5m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	3.0m以上の区域



凡例					

土砂災害				浸水深 想定最大規模	

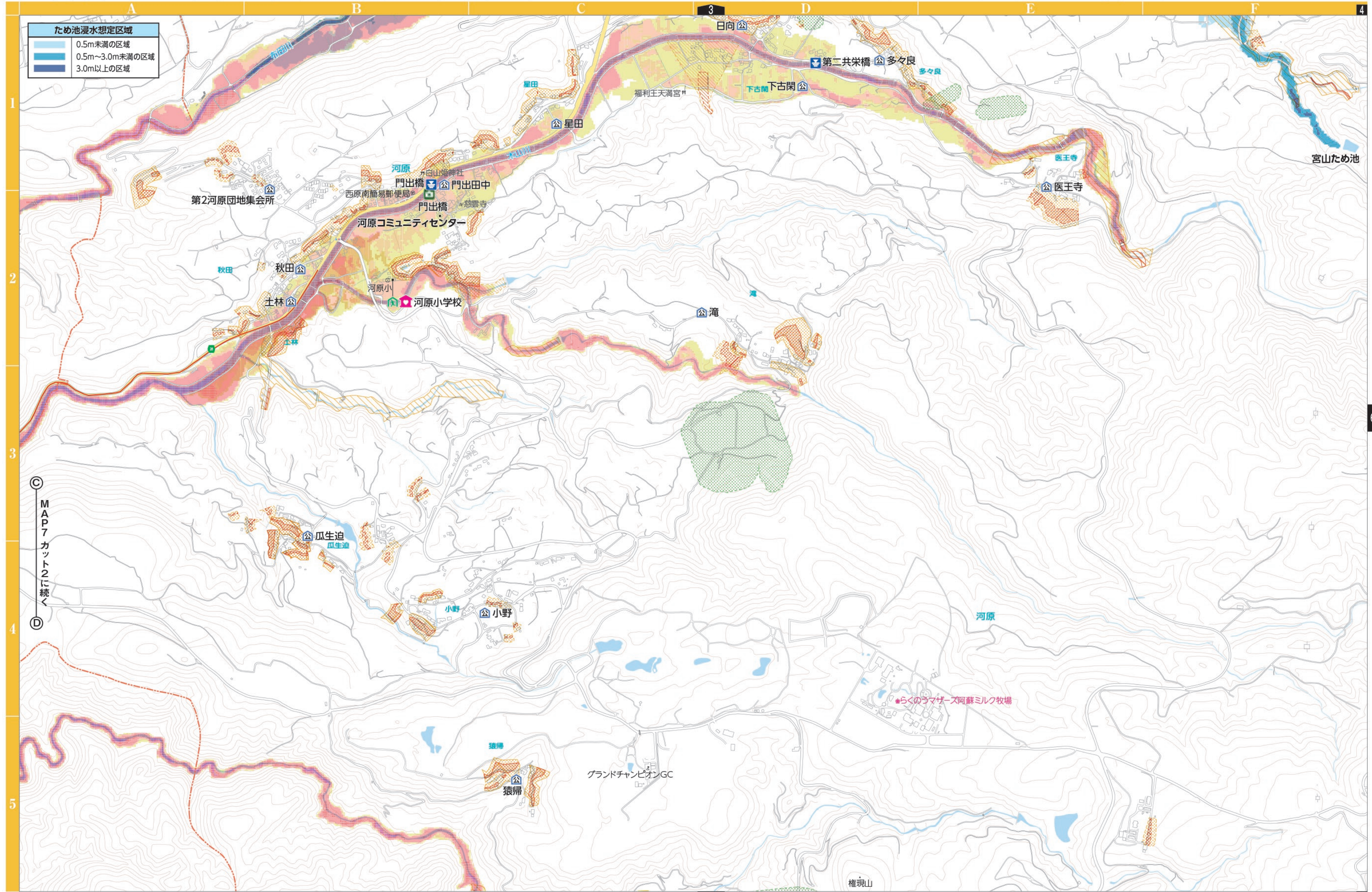


凡例					

土砂災害			

浸水深想定最積換		0.3m未満の区域
		0.3m~0.5m未満の区域
		0.5m~1.0m未満の区域
		1.0m~3.0m未満の区域
		3.0m~5.0m未満の区域
		5.0m~10.0m未満の区域
		10.0m以上の区域

ため池浸水想定区域	
	0.5m未満の区域
	0.5m~3.0m未満の区域
	3.0m以上の区域



MAP
6

凡例

	指定避難所兼指定緊急避難場所		河川カメラ		役場		学校		国道
	指定避難所		水位計		警察署		神社		一般県道
	福祉避難所		冠水想定箇所		消防署		寺院		J R
	公民館		要配慮者利用施設		郵便局				私鉄

土砂災害

	特別警戒区域・土石流		特別警戒区域・土石流 (指定予定)		急傾斜地 (基礎調査予定)
	警戒区域・土石流		警戒区域・土石流 (指定予定)		
	特別警戒区域・急傾斜地の崩壊		特別警戒区域・急傾斜地の崩壊 (指定予定)		
	警戒区域・急傾斜地の崩壊		警戒区域・急傾斜地の崩壊 (指定予定)		
	警戒区域・地すべり		警戒区域・地すべり (指定予定)		

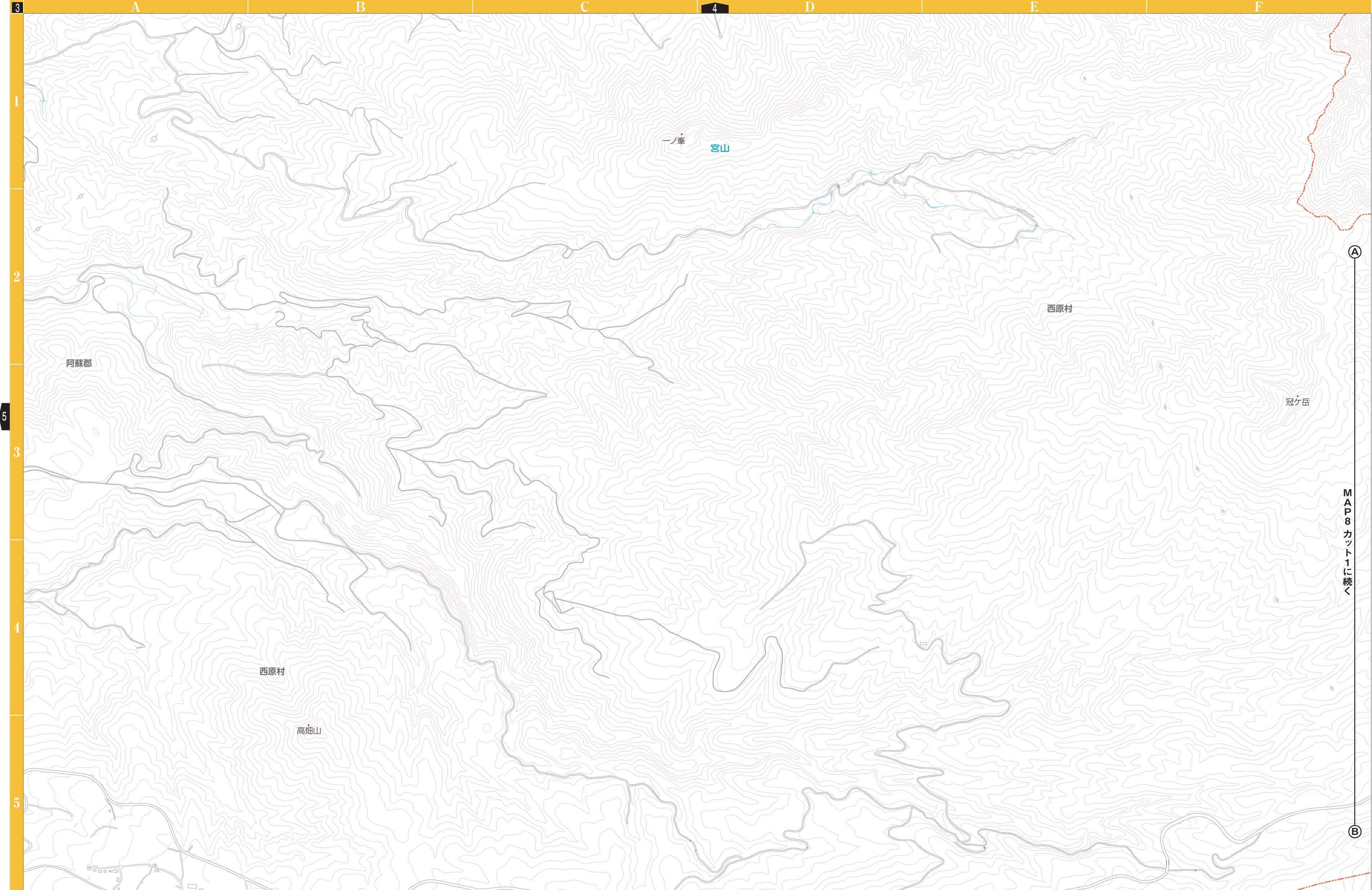
浸水深 想定最損規模

	0.3m未満の区域
	0.3m～0.5m未満の区域
	0.5m～1.0m未満の区域
	1.0m～3.0m未満の区域
	3.0m～5.0m未満の区域
	5.0m～10.0m未満の区域
	10.0m以上の区域

N

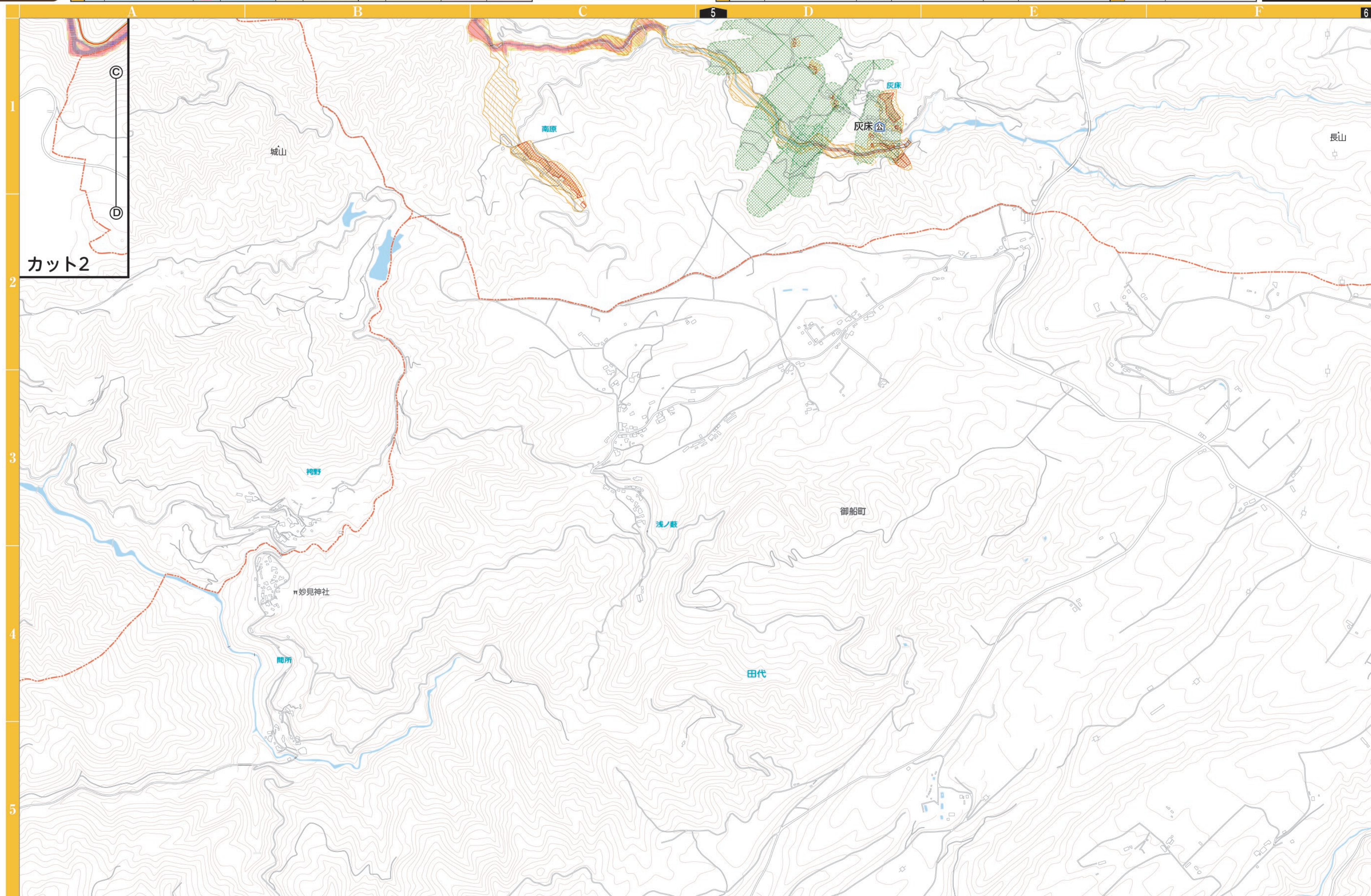
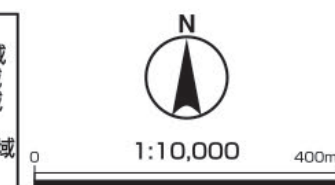
1:10,000

0 400m



凡例					

土砂災害				浸水深 想定最大規模	



MAP
8

凡例

	指定避難所兼指定緊急避難場所		河川カメラ		役場		学校		国道
	指定避難所		水位計		警察署		神社		一般県道
	福祉避難所		冠水想定箇所		消防署		寺院		JR
	公民館		要配慮者利用施設		郵便局				私鉄

土砂災害

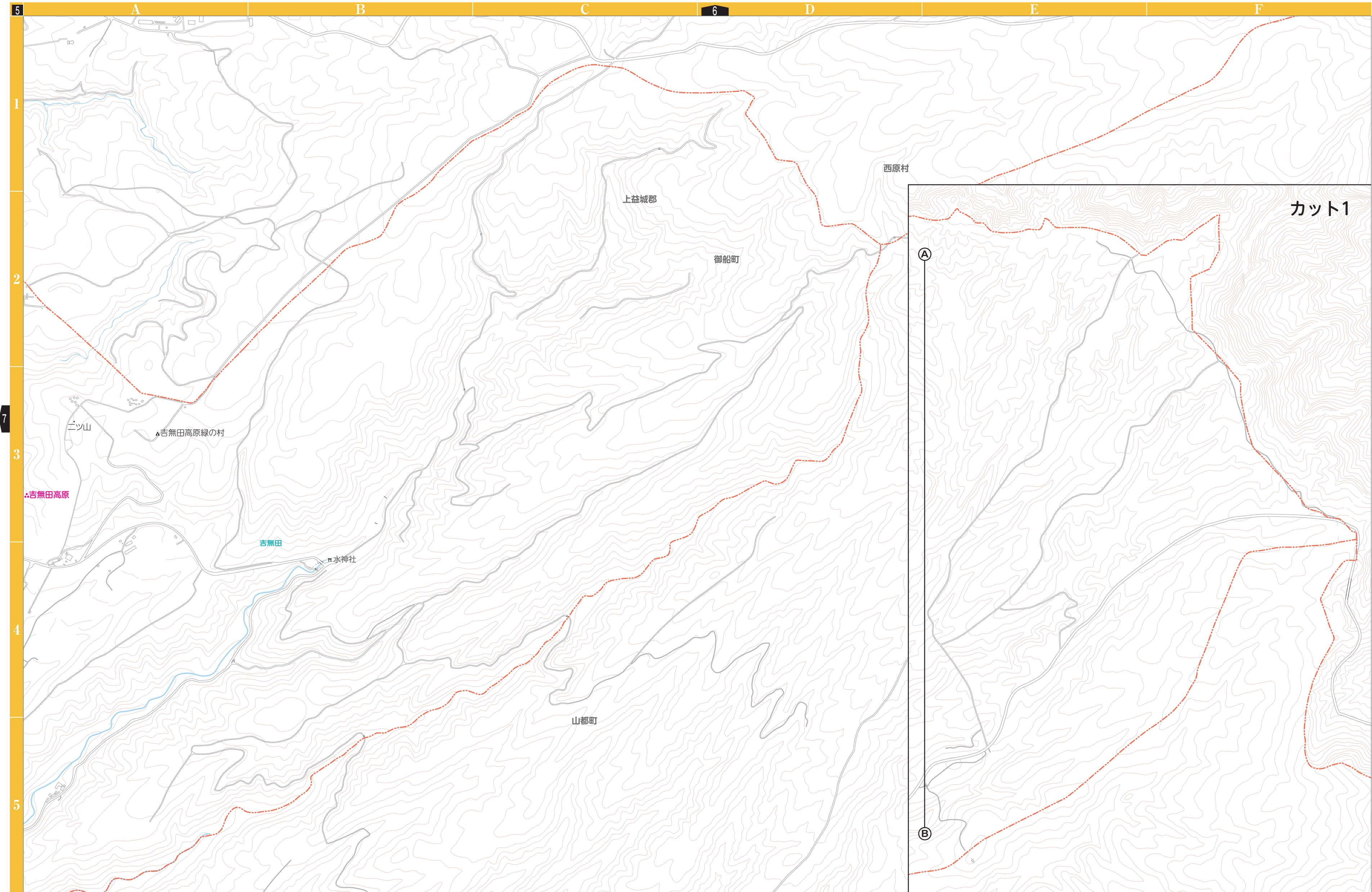
	特別警戒区域・土石流		特別警戒区域・土石流(指定予定)		急傾斜地(基礎調査予定)
	警戒区域・土石流		警戒区域・土石流(指定予定)		
	特別警戒区域・急傾斜地の崩壊		特別警戒区域・急傾斜地の崩壊(指定予定)		
	警戒区域・急傾斜地の崩壊		警戒区域・急傾斜地の崩壊(指定予定)		
	警戒区域・地すべり		警戒区域・地すべり(指定予定)		

浸水深
想定最大規模

	0.3m未満の区域
	0.3m～0.5m未満の区域
	0.5m～1.0m未満の区域
	1.0m～3.0m未満の区域
	3.0m～5.0m未満の区域
	5.0m～10.0m未満の区域
	10.0m以上の区域

N

01:10,000400m



防災に関する知識

緊急時の連絡先

消防・救急は

119番

警察は

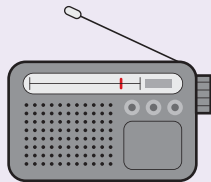
110番

	施設名	住 所	電話番号
防災関連 公共機関	西原村役場	西原村大字小森3259	096-279-3111
	益城西原消防署	益城町大字寺迫202-1	096-286-2119
	消防西原出張所	西原村大字小森583-1	096-279-1190
	大津警察署	大津町大字室676	096-294-0110
	西原駐在所	西原村大字小森583	096-279-2031
電 気	九州電力大津営業所	大津町大字大津1147	0120-761-383
電 話	NTT(電話の故障)		113

日常の
心得

災害は、いつ発生するかわかりません
日頃からの備えが大切です

日頃から気象情報について、
テレビ、ラジオ、新聞、
インターネットなどを通じて
把握するよう努めましょう。



●災害伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、以下のようにお使いください。

伝言を録音する

171 の後に **1** を押し、自宅の電話番号を
市外局番から入力してください。

伝言を聞く

171 の後に **2** を押し、自宅の電話番号を
市外局番から入力してください。

※なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言
ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認して
おきましょう。

防災情報の入手

災害時における防災情報をさまざまな形で配信しています。積極的に防災情報を入手しましょう。



西原村ホームページ

防災サイトで、現在の緊急情報、避難場所、災害情報一覧、
防災行政無線の内容を確認できます。
<https://www.vill.nishihara.kumamoto.jp/>



熊本県防災情報メールサービス

県内の防災情報などをメールで受け取ることが
できます。(登録無料)
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/4/56061.html>

熊本県統合型防災情報システム

県内の河川水位、潮位、土砂災害の警戒情報などを
確認できます。
<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>



西原村公式LINE

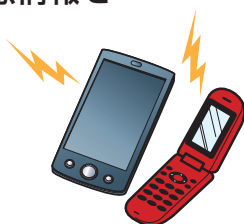
村の最新情報や災害時の緊急情報などを配信
しています。
<https://lin.ee/2L72TQI>



緊急速報メール

「緊急速報メール」により 緊急情報を配信します

村では、災害時の避難指示などの緊急情報を
より多くの人にお伝えするため、
緊急時に村内にいる人の携帯電話へ
「緊急速報メール(エリアメール)」の
配信を行います。



- 「緊急速報メール(エリアメール)」とは、
避難指示などの緊急情報を村内にいる人の
携帯電話(NTTドコモ、au、ソフトバンク等)へ
一斉にメールを配信するものです。
- 配信する情報は、避難指示など、緊急かつ
重要な情報です。
- 携帯電話を利用する人の費用負担や事前の
メールアドレス登録は必要ありません。

※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる
場合がありますので、詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。